

授業科目名	教育相談とカウンセリング	担当教員名	村田 州央
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目-教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 / 保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	2年 前期 (1-2期) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 臨床心理士としてスクールカウンセリングや相談業務に携わってきた経験から、事例説明を含めた授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	教育相談・カウンセリングを行うに当たって必要な知識を獲得することを目的とする。 相談スキルの基本的理解の枠組みとして、臨床心理学のパーソンセンタード・アプローチと、地域援助(コミュニティ・アプローチ)を基本とする。保育現場の相談として保護者からの相談対応が主になることを想定し、以下の基礎知識の習得も目指す。①発達障害や知的障害の基礎的な知識、②保護者が抱える可能性のある課題(精神疾患)の概要。 また、保育者が引き受けられる相談の限界を見極め、専門機関にリファーできる知識の獲得も含め、相談スキルの獲得を目指す。		
到達目標	1-教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 (1)教育相談の意義と理論：学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ①学校における教育相談の意義と課題を理解している。 ②教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 (2)教育相談の方法：教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 ①幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味、並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 ②学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。 ③受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 2-子どもの理解と援助 (1)保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達 や学びを把握することの意義について理解する。 (2)子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 (3)子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 (4)子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解 する		
テキスト	本田秀夫 自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体（SBクリエイティブ）		
参考書・参考資料等	大豆生田 啓友、森上 史郎、太田 光洋（編集）「よくわかる子育て支援・家庭支援論」（ミネルヴァ書房） 十一元三 子供と大人のメンタルヘルスがわかる本 精神と行動の異変を理解するためのポイント40（講談社） 本田秀夫 自閉症スペクトラム 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体（SBクリエイティブ） 宮口幸治 ケーキの切れない非行少年たち（新潮新書） 米澤好史 事例でわかる!愛着障害 現場で活かせる理論と支援を（ほんの森出版）		
成績評価の方法	出席点（30％）、授業態度(15％)、授業後確認テスト（30％）、小テスト（10％）、レポート（15％）		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	「質問シート」の活用ならびに メールへの個別質問連絡（メールアドレスは初回授業時に連絡します）		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	オリエンテーション：教育相談やカウンセリングとは何かについての概略、本授業での習得目標の説明を行う		(1)-①
第2回	自己理解を行うこと：教育相談として相談業務を受けるにあたって、自己理解を行っておくことの必要性を中心に説明。 簡便な実施ができる「20の私」を実際に取り組むことで、生徒自身が客観的な自己を多く表現するのか、主観的な自己を多く表現のかなどを確認させる。		(1)-①
第3回	パーソンセンタードアプローチ/来談者中心療法について：相談を受ける際の基本的態度としてパーソンセンタードアプローチの立場から面談を行う方法や、他者の理解する観点、傾聴、受容、共感の重要性と意義について説明を行い、傾聴体験として、1分間相手の話を聴くことに徹する体験を行う。		(1)-②
第4回	コミュニティ心理学について：教育相談において、幼児教育では地域援助の側面が強く含まれることから、コミュニティ心理学の視点での相談援助への理解を深める。 長期的な視点ではあるが発達障害の二次障害や、保護者支援の側面として精神疾患を防ぐという観点も重要であり、予防や危機介入の視点についても教育相談の在り方として理解を深める。		(1)-②、(2)-②
第5回	子育て支援と家庭支援について①：子育て支援の在り方について、基本的な理解を行うとともに、今日の社会的な環境についても理解を深めるとともに、子育ての負担や育児不安など、ストレスを感じやすい場面について理解を深める。また、子育てを行っている家庭にかかわる諸問題として、虐待、ひとり親家庭の増加、貧困、家庭内暴力なども含めた家族の問題や、その背景にある社会的な要因についても理解を深める。		(1)-②、(2)-③
第6回	子育て支援と家庭支援について②：家庭支援として何が求められるのか、保育園、幼稚園の立場からどういった支援を行うことができるのか理解を深める。そのための方法として、支援の展開過程について理解を深め、インテークやアセスメントを行うことの重要性について理解を深め、簡便なアセスメントのための知識の獲得を目指す。		(2)-①
第7回	子どもの定型発達について：障がい特性の理解を深める基礎として、幼児期の定型発達についての理解を深める。また定型発達の中での、発達上のつまづきについて理解を深めるとともに、集団と個の関係性や、それによって獲得、習熟する社会性の発達について理解を深める。また、定型発達の理解と支援に加えて、子どもの保育環境を整える意義や技術についても理解を深めるものとする。		(2)-①
第8回	自閉スペクトラム症について：教育相談上において、保護者から相談が持ちかけられる相談内容として発達障害についての相談が持ちかけられることが予測される。相談への対応の基礎知識として、自閉スペクトラム症についての基本的知識を説明するとともに、実際に行った対応事例などを紹介し、教育相談を行うための知識を深める。		
第9回	学習障害・注意欠陥多動性障害・知的障害について：教育相談上において、保護者から相談が持ちかけられる相談内容として発達障害についての相談が持ちかけられることが予測される。相談への対応の基礎知識として、学習障害・注意欠陥多動性障害・知的障害についての基本的知識を説明するとともに、実際に行った対応事例などを紹介し、教育相談を行うための知識を深める。 また、合理的配慮についての理解を深めるとともに、保育を行う環境調整やその技術についても理解をすることで、健常・障がいに関わらず子どもに支援を行う知識の獲得を目指す。		(3)-②、(3)-④
第10回	知的障害、発達障害への理解を深めるため、各自のパート・アルバイト勤務先や身近にいる障害特性を抱える子どもについて、差支えの無い範囲に限定したうえで個別事例的にケース検討形式でかわり方や、受け止め方を考える。心理職の視点について伝えることだけでなく、現場で子どもに関わる生徒自身がどう接すると良いと考えるのかをゼミ形式で考え、回答させることで、よりアクティブラーニングに沿った学びとすることを目的とする。		
第11回	精神疾患について：教育領域などを中心に相談業務では、児童・生徒など、子どもの課題の背景に親のメンタルヘルスの問題が認められる場合もある。メンタルヘルスの問題について知ること、家庭の問題に対する理解を深める。保護者の抱える問題として、比較的に出会う可能性のあるメンタルヘルスの問題として、うつ病、パニック障害を中心に知識を深める。		(3)-①、(3)-④

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第12回	愛着障害について：発達障害や精神疾患とは質的に異なる関係性の障害である愛着障害について理解を深める。 医学的な診断に基づくものに限らず、広義の愛着障害について理解することを目指す。保護者自身が愛着の問題を抱え、子育てに葛藤を抱いている可能性もあるため、幅広い相談に応じられるよう目指す視点として愛着関係と愛着障害への理解を深める。	
第13回	保育所における子育て支援の役割について：子育て支援の意義などを中心に説明し、配慮が必要な子ども、特別支援学級に在籍する子どもについてなど、教育相談を行うに当たって必要と考えられる視点についての理解を深める。 保育現場における相談・援助①：保育現場における相談の基本的な特徴や傾向を理解し、相談援助を行うに当たっての基本的な技術についての理解を深める。 相談援助を行うに当たり必要な保育園・幼稚園の内外の環境や資源についての理解も深める。	(3)-③、(3)-④
第14回	保育現場における相談・援助②：相談援助における内容として発達上の相談や虐待についての相談が考えられることから、それらの相談において必要な対応や、連携すべき支援機関などについての理解を深める。	(2)-①
第15回	保育現場における相談・援助③：子どもの育て方や親自身の悩みに対する相談についての理解を深める。昨今では核家族化が進み、地域や近隣において相談を行うことができる環境にないことなども念頭に入れ、多様な相談がある可能性について理解を深めるとともに、相談や悩みの背景に家族環境の影響が疑われる場合もあることから、家族の関係性への見立てを行うことの重要性についても理解を深める。	(2)-①